

令和 5 年 10 月 24 日現在

機関番号：34536

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12145

研究課題名（和文）中小規模病院における成人看護学実習指導体制モデル構築のための基礎的研究

研究課題名（英文）A basic study on the construction of a clinical instruction framework model in adult nursing for small to medium-sized hospitals

研究代表者

堤 かおり（Tsutsumi, Kaori）

宝塚医療大学・和歌山保健医療学部・教授

研究者番号：20327480

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中小規模病院における成人看護学実習指導体制モデルを構築するための基礎的研究として、実習指導上の困難について半構成面接と質問紙調査を実施した。

中小規模病院の成人看護学実習において看護教員は、現代学生気質、学生の学習状況の把握と倫理観の育成、情報共有方法、そして臨床現場の状況を理解した上で、実習指導者が実習指導に無理なく時間を使えるように看護教員との連携する方法、臨地実習に伴う業務調整、さらに両者の役割について、実習指導体制モデルに反映していく必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護系大学の増加に伴い、実習場の確保は困難が伴い、中小規模病院を選択せざるを得ない現状がある。しかし中小規模病院では、専任の実習指導者がいないことも多く、学習環境として十分整っているとは言い難い。この状況は学生の学習満足度、看護観育成とともに、卒業時に習得すべき基本的な看護実践能力に大きく影響を与える。本研究の結果から実施可能な成人看護学実習指導体制モデルを構築することによって、学生の看護実践能力の育成と、病院と大学双方において教育力を向上させていくことができる。さらに本研究は、人材育成につながる研究であり、厚生労働省の施策である中小規模病院の看護管理能力向上にも貢献する研究である。

研究成果の概要（英文）：A basic study was conducted to construct a clinical instruction framework model in adult nursing for small to medium-sized hospitals. The study involved semi-structured interviews and questionnaire surveys to explore the difficulties in clinical instruction. In adult nursing clinical practicum at small to medium-sized hospitals, nursing educators need to collaborate with clinical instructors in order to understand the characteristics of contemporary students, assess students' learning situations, foster ethical values, establish methods for information sharing, and comprehend the conditions of the clinical setting. Furthermore, it is necessary to incorporate into the clinical instruction framework model the methods for collaboration between nursing educators and clinical instructors, task coordination associated with on-site practicum, and clarification of the roles of both parties, ensuring that clinical instructors can effectively utilize their time in clinical instruction.

研究分野：成人看護学、看護教育

キーワード：中小規模病院 成人看護学実習 実習指導体制

1. 研究開始当初の背景

医療の複雑化に対応する看護人材への需要の増大を反映し、看護系大学数は2016年246校254課程まで増加している。看護系大学の増加がもたらす課題のひとつは、病院の臨地実習受け入れの困難性である¹⁾。特に、付属病院を持たない大学では、1領域の実習において複数の中小規模病院(300床未満)を活用しなくてはならない。我々の先行研究によればこれらの病院においては専任の指導者を配置するなどの実習指導体制の整備が難しく、指導者研修を受けていない看護師が、日々の患者のケアを行いながら学生指導を担っている現状が明らかになった²⁾。その場合、日々の患者のケアに加えて学生指導を担うため、看護師にとっては、学生指導への負担や不安は大きく^{3,4)}、学生の実習満足度への影響も考えられる。

また、看護系大学の増加は教員不足という問題も引き起こしている。実習病院では、1病棟に1教員が常駐することが求められている場合が少なくなく、中小規模病院においては、この要求はより強いのではないかと推測する。しかし、大学教員は学内での教育も担っているため、臨床現場に常駐しての実習指導は容易ではないという現実がある。

文部科学省⁵⁾は、看護実践能力の卒業時到達目標として、「学生側に臨地実習など看護実践体験を通して、看護事象を理解する基盤ができてい」ことを重視している。臨地実習は、学生が実践能力を育むための重要な場であり、実際の看護に関する様々な体験を積む機会となっている。そのため中小規模病院での実習指導体制の改善は急務であると考えられる。

2. 研究目的

本研究は、中小規模病院における成人看護学実習の指導体制、指導内容、ニーズから指導上の困難を明確化し、中小規模病院において実施可能な成人看護学実習指導体制モデルを構築するための基礎的研究である。

3. 研究の方法

- 1) 中小規模病院にて成人看護学実習を担当している看護師・臨地実習指導者(以後、指導者とする)を対象として、成人看護学実習における指導体制へのニーズ、指導体制、指導内容から指導上の困難について半構造化面接を行った。結果は、類似性に従ってカテゴリー化し、質的に分析した。
- 2) 半構造化面接から抽出したカテゴリーを質問紙項目に設定し、成人看護学実習を受け入れている中小規模病院の指導者と、看護系大学(日本看護系大学所属の大学)において成人看護学実習を担当する教員(以後、看護教員とする)に質問紙調査を行った。
- 3) 調査結果から中小規模病院における成人看護学実習指導体制モデルに反映させるべき項目を明らかにした。

4. 研究成果

1) 半構造化面接結果

協力の得られた臨地実習指導者14名を対象に成人看護学実習における指導体制へのニーズ、指導体制、指導内容について半構造化面接を行った。

結果をもとに【学生の特性に合わせた指導】11項目、【学生指導に専念できる時間的余裕】4項目、【実習に伴う業務】7項目、【臨地実習指導者-教員間の指導・連携】13項目を中小規模病院における成人看護学実習指導上の困難とし、これらを質問項目に設定した。

2) 質問紙調査結果

中小規模病院における成人看護学実習指導上の問題について、中小規模病院139件、看護系大学99件に配布し、臨地実習指導者と看護教員に回答を求めた。回答は臨地実習指導者34名(回答率8.2%)、看護教員37名(回答率12.5%)から得られた。質問の回答は傾向を明らかにするために4段階から2段階(困難がある・困難はない)に集約し単純集計を行った。指導者と看護教員との群間比較には独立性の検定(二乗検定またはフィッシャーの正確確率検定)を行い(有意水準5%未満)、どの値が有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析を行った。分析結果を表1に示す。以下、質問項目は【 】、質問内容は「 」で示す。

(1) 【学生の特性に合わせた指導】

『困難がある』と回答した指導者の割合が高かったのは、「現代の学生気質を理解する」76.5%、「学生が色々なことを学ぶことができるよう調整する」58.8%、「看護に必要な倫理観を育成できるよう学生に関わる」55.9%の順であった。指導者に『困難がある』と回答した看護教員の割合が高かったのは「現代の学生気質を理解する」64.9%、「学生の状況・反応にあわせて指導する」59.5%、「学生指導にはコーチング・ティーチングを活用する」56.8%の順であった。2群間を比較した結果、「指導者は学生の看護過程展開には時間を要することを理解する」という質問項目に有意差が認められ、残差分析により指導者に『困難がある』と回答した看護教員が多かった(指導者23.5%、看護教員48.6%、 $p = .028$)。

(2) 【学生指導に専念できる時間的余裕】

『困難がある』と回答した指導者の割合が高かったのは、「実習施設管理者・病棟管理者は可能なかぎり業務調整をする」70.6%、「実習施設管理者・病棟管理者は可能なかぎり学生指導に専念できるよう調整をする」70.6%、「実習施設管理者・病棟管理者は指導者が複数日は継続して指導できるように調整をする」67.6%の順であった。

指導者に『困難がある』と回答した看護教員の割合が高かったのは、「実習施設管理者・病棟管理者は指導者が複数日は継続して指導できるように調整をする」80.6%、「実習施設管理者・病棟管理者は可能なかぎり学生指導に専念できるよう調整をする」77.1%、「実習施設管理者・病棟管理者は可能なかぎり業務調整をしている」74.3%の順であった。

この質問グループは2群間で有意差のある質問項目はなかった。

(3)【実習に伴う業務】

『困難がある』と回答した指導者の割合が高かったのは、「指導者は院内の指導者基準・教育プログラムを活用する」69.7%、「指導者とスタッフ間で学生の学習状況の把握・情報共有を行う」60.6%、「臨地実習指導者は学生用ファイルの記載が負担とならないよう単純化する」54.5%の順であった。

指導者に『困難がある』と回答した看護教員の割合が高かったのは、「指導者とスタッフ間で学生の学習状況の把握・情報共有を行う」69.4%、「指導者同士は学生用ファイルなどを活用して学習状況の把握・情報共有を行う」64.9%、「指導者としてスタッフを含め病棟全体で実習学生と関わるという認識をもつよう調整する」65.7%の順であった。

2群間を比較した結果、「臨地実習指導者同士は学生用ファイルなどを活用して学習状況の把握・情報共有を行う」という質問項目に有意差が認められ、残差分析により指導者に『困難がある』と回答した看護教員が多かった(指導者 24.2%、看護教員 64.9%、 $p = .001$)。

(4)【指導者 - 教員間の連携】

『困難がある』と回答した指導者の割合が高かったのは、「指導者間、スタッフ、教員との実習指導の統一を心掛ける」45.5%、「指導者と教員は、相互に実習指導に対するフィードバックを行う」45.5%、「教員不在時の実習進行を明確化する」43.8%の順であった。

指導者に『困難がある』と回答した看護教員の割合が高かったのは、「指導者間、スタッフ、教員との実習指導の統一を心掛ける」62.2%、「教員不在時の実習進行を明確化する」54.8%、「大学の教育方針・カリキュラムへの理解・共有をする」52.8%の順であった。

2群間を比較した結果、「指導者・教員の役割を把握する」という質問項目に有意差が認められ、残差分析により指導者に『困難がある』と回答した看護教員が多かった(看護教員 38.2%、指導者 12.5%、 $p = .017$)。

表1 質問紙：成人看護学実習における臨地指導者の抱える困難

質問	困難がある	
	指導者 (%) n=34	看護教員 (%) n=37
1.【学生の特性に合わせた指導】		
1) 現代の学生気質を理解する	26(76.5)	24(64.9)
2) 指導者と教員で要配慮学生に対する事前の情報を共有する	11(32.4)	17(45.9)
3) 学生の看護過程の展開には時間を要することを理解する	8(23.5)	18(48.6)
4) 学生の行動目標に合わせて指導する	13(38.2)	20(54.1)
5) 学生の状況・反応にあわせて指導する	13(38.2)	22(59.5)
6) 学生の理解しやすい言葉・方法で指導する	13(38.2)	15(40.5)
7) 学生指導にはコーチング・ティーチングを活用する	17(53.1)	21(56.8)
8) 学生が色々なことを学ぶことができるよう調整する	20(58.8)	17(45.9)
9) 看護に必要な倫理観を育成できるよう学生に関わる	19(55.9)	19(51.4)
10) 職業人としての基本的なマナーを身につけられるよう学生に関わる	14(41.2)	13(35.1)
11) 将来の看護職としてのロールモデルとなるよう学生に関わる	13(38.2)	17(45.9)
2.【学生指導に専念できる時間的余裕】		
1) 実習施設管理者・病棟管理者は可能なかぎり業務調整をする	24(70.6)	26(74.3)
2) 実習施設管理者・病棟管理者は可能なかぎり学生指導に専念できるよう調整をする	24(70.6)	27(77.1)
3) 実習施設管理者・病棟管理者は指導者が複数日は継続して指導できるように調整をする	23(67.6)	29(80.6)
4) 実習施設管理者・病棟管理者は1病棟あたりの学生人数の調整をする	15(45.5)	20(57.1)
3.【実習に伴う業務】		
1) 指導者としてスタッフ間の連絡・調整を行う	11(33.3)	19(52.8)
2) 実習終了後に指導者自身の業務が残らないようにスタッフに調整・協力を求める	15(45.5)	20(58.8)
3) 指導者としてスタッフを含め病棟全体で実習学生と関わるという認識をもつよう調整する	16(50.0)	23(65.7)
4) 指導者とスタッフ間で学生の学習状況の把握・情報共有を行う	20(60.6)	25(69.4)
5) 指導者同士は学生用ファイルなどを活用して学習状況の把握・情報共有を行う	8(24.2)	24(64.9)
6) 指導者は学生用ファイルの記載が負担とならないよう単純化する	18(54.5)	15(46.9)
7) 指導者は院内の指導者基準・教育プログラムを活用する	23(69.7)	15(46.9)
4.【臨地実習指導者 - 教員間の指導・連携】		
1) 指導者・教員間のコミュニケーションをとる	3(9.1)	8(23.5)
2) 大学の教育方針・カリキュラムへの理解・共有をする	12(36.4)	19(52.8)
3) 実習目的・目標を理解して指導をする	7(21.2)	12(34.3)
4) 指導者・教員の役割を把握する	4(12.5)	13(38.2)
5) 学生指導方法について教員と連携・調整する	6(18.2)	10(29.4)
6) 学生の事前学習の内容・学習状況を教員と共有する	14(42.4)	17(45.9)
7) 指導者間、スタッフ、教員との実習指導の統一を心掛ける	15(45.5)	23(62.2)
8) 指導者間やスタッフに実習指導の方向性の確認を行う	9(27.3)	17(47.2)
9) 指導者・教員間で指導内容・指導力を補い合う	8(25.0)	15(44.1)
10) 指導者と教員は、相互に実習指導に対するフィードバックを行う	15(45.5)	14(40.0)
11) 指導者と教員は、お互いを尊重しあい、連絡・報告・相談を行う	5(15.2)	9(29.0)
12) 教員不在時の実習進行を明確化する	14(43.8)	17(54.8)
13) 実習病院・教員間の連携・調整を充実・強化する	11(33.3)	18(52.9)

*: $p < .05$ **: $p < .01$

3) 指導体制モデルのための項目

中小規模病院の成人看護学実習において看護教員は、現代学生気質、学生の学習状況の把握と倫理観の育成、情報共有方法、臨床現場の状況を理解した上で、実習指導者が実習指導に無理なく時間を使えるように看護教員との連携する方法、臨地実習に伴う業務調整、さらに両者の役割について、実習指導体制モデルに明確に反映していく必要がある。

引用文献

- 1) 平岡敬子, 2000, 臨地実習における大学と実践の場との連携と協働について, 第一回看護学教育ワークショップ参加報告, 看護学統合研究 1(2):60-66.
- 2) 堤かおり, 關戸啓子, 近藤ふさえ, 植村小夜子, 那須さとみ, 2018, 中規模病院における指導者が抱える成人看護学実習指導上の困難, 第 38 回日本看護科学学会学術集会.
- 3) 箕輪千佳, 2009, 新規の看護学実習を受け入れる実習指導者の情報ニーズと大学への期待, 佐久大学看護研究雑誌 1(1):3-11.
- 4) 日本医師会, 「看護師等養成所における実習に関する調査」結果について, (2023.8.10.), http://dl.med.or.jp/dl-med/chiki/kango/kango_h2606.pdf
- 5) 文部科学省, 臨地実習指導体制と新卒者の支援, (2023.8.10.) <http://www.mext.go.jp/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 K.Tsutsumi, K.Sekido, F.Kondo, S.Uemura, S.Nasu
2. 発表標題 training guidance of instructors in charge of adult nursing clinical practicums
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堤かおり、關戸啓子、近藤ふさえ、植村小夜子、那須さとみ
2. 発表標題 中規模病院における臨地実習指導者が抱える成人看護学実習指導上の困難
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 K.Tsutsumi, K.Sekido, F.Kondo, S.Uemura, S.Nasu
2. 発表標題 Teaching experiences of nurses in charge of instruction in adult nursing clinical practicum during practical training in Japan
3. 学会等名 2nd EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 ふさえ (Kondo Fusae) (70286425)	順天堂大学・保健看護学部・教授 (32620)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	関戸 啓子 (sekido keiko) (90226647)	宝塚医療大学・和歌山保健医療学部・教授 (34536)	
研究分担者	植村 小夜子 (Uemura Sayoko) (10342148)	佛教大学・保健医療技術学部・教授 (34314)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	那須 さとみ (Nasu Satomi)		
研究協力者	黒住 智子 (Kurosumi Tomoko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関